

教科の統合的な学びの習得を目指す授業実践

－国語科「書くこと」×体育科「表現遊び」の教科横断的な授業を通して－

高根 悠輔（愛知教育大学）

1. 目的

本研究では、国語科「書くこと」と体育科「表現遊び」の教科横断的な授業実践を行い、両教科の内容の類似性を生かして学びを相関させることで、児童の想像力の広げ、深めながら、言語や身体表現力を豊かに育むことを目的とした。

2. 研究方法

- 1) 対象者：愛知県公立小学校2年2組33名
- 2) 調査方法：国語科2時間→体育科5時間→国語5時間の順で行い、お話づくりを共通して行う。毎時間ワークシートを記入し、体育科は動きを2台のカメラで撮影する。
- 3) 分析方法：「形骸模倣・誇張模倣・オリジナル模倣」(成瀬ら, 2018)の観点から、撮影した映像を基に児童の動きを分析する。

3. 結果と考察

1) 国語科の変容

今回扱った「絵を見てお話を書こう」という単元は、①②④の絵を見て、空白になっている③の場面を自由に想像し、つながりのあるお話を作る内容である。表1は表現遊びを実施する前の2時間目と実施後の3時間目の③の場面で起こることを自由に想像して書いた内容であり、

表1 国語科 抽出児童 記述

児童	国語科 2時間目	国語科 3時間目
A	川の左がわにいて、のこっているところを、ジャンプして、むこうぎしまで行く。	川に入って、のこっているところを、手と足で、ジャンプしながら、うんていみたいに、手と足を、うごかして、ちょっと休けいして、りくに、手に、力を入れて、上がる。
B	いるかがきてせなかにのせてくれた。	こまっているといるかがきて「ぼくのせなかにのせてあげる。」するとくまが「ありがとう。」そしているかのせなかにのって川のむこうへ行くとうちへ帰りました。
C	はしが、こわれて、いえにかえれなくてこまっている。	ねえくません、あそこ到大工さんがいるから大工さんにはしをなおしてもらったら、家に帰れました。

比較すると具体的に場面の様子を想像することができるようになっていと考えられる。

2) 体育科の変容

第5時にはほとんどの児童が誇張模倣の動きに変容しており、中でもオリジナル模倣を行っている児童を抽出した。児童の動きは図1に示した通りであり、独自のリズムのくずしがあり、足のステップを不定期なリズムで行っていた。ワークシートの記述を見ると、ゴリラの様子を「バナナの木があつてゆらしてバナナを落として食べた。そのあと昼寝をして次に散歩をして獲物を見つけたら威嚇をして追い払いました」と記述しており、イメージの具体性が高まったと推察できる。これは、国語でのお話づくりを経験していることと表現遊びで動きを通してイメージが深まったことが要因として考えられる。

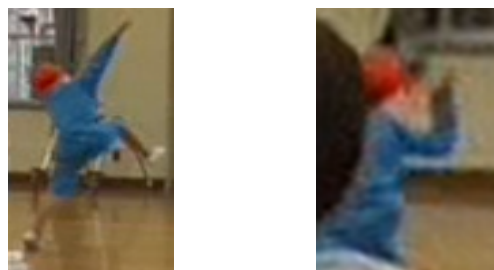


図1 オリジナル模倣

4. 結論

本研究では、国語科と体育科を相関させることで、両教科とも想像したイメージの具体性が増した。体育科では多様な質感の動きを引き出すことができた結論づけられる。

5. 主な参考文献

- 1) 成瀬麻美・寺山由美・永原隆, 小学校体育授業における表現遊びの即興時に現れる3つの模倣の動き：分類の観点, 体育学区研究, 63(2), pp.769-784.